

番号	対象物
①	災害復興記念碑
②-1	水神(厚生病院敷地内)
②-2	水神(八十二銀行駐車場)
②-3	水神(市田駅前広場)
②-4	水神(昭和通り貯水槽横)
②-5	水神(川端通り貯水槽横)
③	出砂原の六地藏
④	出砂原の大石
⑤	三界萬霊碑
⑥	供養塔

番号	対象物
⑦	母子健康センター跡
⑧	斉藤茂吉の歌碑
⑨	大井の取り入れ口
⑩	築堤記念碑
⑪	亀甲石

① 災害復興記念碑 さいがいふっこうきねんひ

〔六区〕

昭和54年(1979)11月6日建立
 【所在地】下伊那厚生病院中央の南側

昭和36年(1961)6月下旬の梅雨前線豪雨により、伊那谷は未曾有の惨禍に遭い、天竜社は大島川の決壊により壊滅的な大損害をこうむった。
 この復旧には筆舌に尽くし難い困難を伴ったが、関係者が一丸となって復興に努めた結果、「転災為福」(災い転じて福と為す)を基盤に造成するに至り、ついに復興を成し遂げ、これを記念して建立された。



災害復興記念碑



復興記念碑のある場所

② 水神 みづじん

〔六区〕

【所在地】

- ① 下伊那厚生病院中央の南側
- ② 八十二銀行駐車場奥
- ③ 市田駅前広場
- ④ 昭通貯水槽横
- ⑤ 川端通貯水槽横



② 八十二銀行駐車場奥
昭和22年(1947)



③ 市田駅前広場
大正14年(1925)

① 下伊那厚生病院敷地内
昭和37年(1962)



この「水神」は県道バイパスの跨線橋の下、線路沿いの道路端、下伊那厚生病院のフェンスの中にある。建立は昭和37年(1962)で「三六水害」の翌年である。
 かつて天竜社の敷地だった所で、再びこのような大きな水害がおこらないように、神に祈って建てられたものである。



④ 昭通貯水槽横
昭和6年(1913)



⑤ 川端通貯水槽横
昭和10年(1935)

③ 出砂原の六地藏

〔六区〕

〔所在地〕出砂原 明照寺前



六地藏

正徳五年（1715）6月18日におきた「未満水」により、多くの犠牲者の供養のために建てられ、その傍らには「三界萬霊碑」も建立された。

六地藏はその後荒廃したため、約120年後の天保12年（1841）に再建された。

初代の六地藏は仏心の深い下市田、流田の二代福島九左衛門が亡くなった幼児の菩提を弔うために建立したが、「未満水」の際に押し流された。

現在、出砂原の大石の上に祀られている一体のお地藏様は、その時に寄進されたうちの一体で、流されずに残ったものではないかといわれている。

地藏は釈迦入滅以後、弥勒菩薩が人間界に現れるまでの間、人間界に現れ民衆を救って下さると言われ、路傍などに立って、道行く人の安全を守って下さるといふ。

六地藏は、「六道地藏」と言って、六道の辻に立って救って下さるとされ、古くから信仰を得ている。

④ 出砂原の大石

〔六区〕

〔所在地〕出砂原 北部タクシー下段

「正徳五年 未満水」のあり、「不動滝」の奥から押し流されてきた石で、当初は現在の上の段にあり、「六地藏」と向き合っていた。

大正12年（1923）の鉄道開通とともに、駅前開発工事の際この石の根本まで掘ったために危険となり、今のところへずり落とした。この移転により石の上の地藏さんは「六地藏」が見えなくなり、それを悲しんで泣いたという。それで別名「夜泣き石」と言われている。

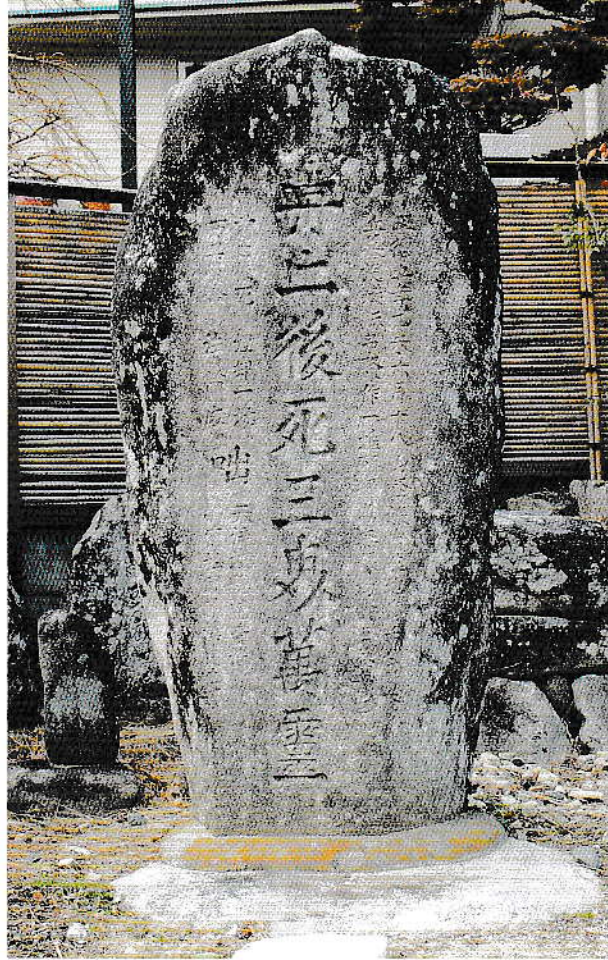


出砂原の大石



5 三界萬靈碑 さんがいばんれいひ

〔六区〕〔所在地〕出砂原明照寺前



三界萬靈碑

「前亡後死三界萬靈碑」は「正徳の未満水」の後（年号不明）に建立された。正面の大きな文字の左右には、小さな文字で数行にわたり「未満水」の説明と、この碑の建立の由緒が刻まれているが難読である。

碑文については以前に六区の故春日胤雄氏によって解説されているので、つぎに同氏による読み下し文を掲載する。

正徳5年（1715）6月18日、山も谷も淵も崩れ、墓地は水に流されてしまった。水没した墓の跡にのこったものを聚めて一つの丘を造つて弔う。

どうか縁のあるものも縁なきものも、みな均しく仏の利益を蒙ることができるよう願うものである。（「秋の郷」第17号所載）

当時の下市田安養寺二世住職、了溪禪師の建立となっている。

6 供養塔 くようとう

〔六区〕

天保13年（1842）壬寅正月
〔所在地〕出砂原明照寺前

「三界萬靈碑」に並んで建てられている。碑の表面には「奉順拝西国（三十三所）四国（八十八所）秩父（三十四所）坂東（三十三所）供養塔」と刻まれており、側面には天保13年（1842）壬寅正月となっている。

もう一方の側面には願主上沼久兵衛母となっており、推察では亡くなった我が子の供養のために母親が寄進したものと思われる。年号からたどると「出砂原の六地藏」が再建された翌年（1842）に建てられたものである。



供養塔

供養塔のある近景



7 母子健康センター跡 〔六区〕

【所在地】出砂原下市田2071番地

母子健康センターは心身ともに健康な親子を守り育てたいとの婦人団体の強い要望によって、昭和37年（1962）8月に開設された。

昭和40年（1965）代には近隣の町村からも多くの利用者があり、出産も盛んで三名の助産婦さんが常駐するほどの盛況だった。

時代の変化により産婦が病院での出産を希望するようになり、次第に利用者が少なくなり保健事業のみとなったため、昭和56年（1981）3月ついに閉所となり、跡地には人家が何軒も建てられている。

開所から閉所までの20年間の出生者の数は、3,076名となっている。



母子健康センターの跡地

8 齊藤茂吉の歌碑 〔六区〕

【所在地】明神橋出砂原側

向こうより瀬の白波の激ち来る

天竜川におり立ちにけり



歌碑の全景

歌人の齊藤茂吉は大正15年（1926）11月6日、初めて伊那谷を訪れ、天竜川を眺めて感動し、この歌を詠んだ。この碑は以前、港公園に建てられていたが、明神橋のかけ替え工事により今の位置に移転した。

齊藤茂吉の訪れた日にちなんでこの日に建てられた。



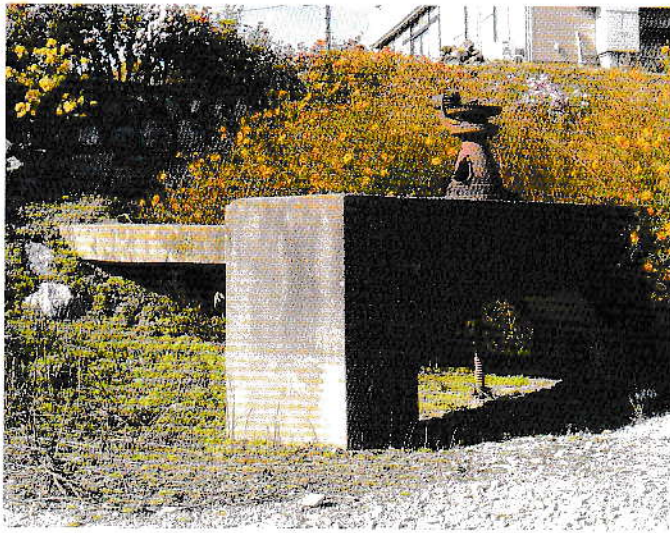
歌碑の遠景

9 大井の取り入れ口 おおい い 六区

【所在地】大島川出口のそば

昔から天龍川に沿った西側に、大島川の水を取水した大井があり、「小天龍間分」と言われていた。惣兵衛堤防築堤の絵図面には「上の亀甲石」のそばに「井口より」との記載があり、当時すでに利用されていたと思われる。

惣兵衛堤防はその後、しばしば改修されており、大正3年（1914）7月の水害で、この取り入れ口も決壊したため、大正3年（1914）9月より翌4年（1915）4月にかけて修復工事が行われた。これが「ださら堤防」といわれるもので、長さは約15m。この時に新しい取り入れ口も完成した。掲載の写真はその取り入れ口の水門で、その後、地形や水流の変化などにより、現在は使用されていない。



取り入れ口（間分）の全景



取り入れ口の遠景

10 築堤記念碑 ちくていき き ねん ひ

【六区】

大正4年（1915）建立



記念碑

【所在地】

下市田二区旧「水天宮」の横

別記「ださら堤防」竣工の記念として建立されたもので、碑の背面には工事の請負人として、大島虎太郎、野神喜子太郎、大澤米太郎、坂牧忠作、坂牧太金治、松島数太郎、松島平八郎以上七名の方々の名前が刻まれている。

11 亀甲石 きつ ここう せき

【六区】

【所在地】

明神橋上流水防小屋前

二区の「亀甲石」とともに、惣兵衛堤防築堤測量の基点となった。以前は天竜社の敷地内にあったものが、一家の民家の石垣に組み込まれていて、一部分だけが出ていたため、全体の大きさが不明だった。明神橋のバイパス工事により埋没の危機となり、当時の建設省へ陳情の結果、保存の措置がとられた。

現在は天竜河畔の水防小屋の前の空き地に保存されている。

また、表面が削られて刻字が不鮮明のため、下市田史談会では平成15年（2003）に二区のものゝ拓本にとり、業者に依頼して再刻し現在に至っている。



亀甲石